

海外安全対策情報（平成30年1月～3月）

1 社会・治安情勢

（1）カラチ市

ア 2013年9月以降、準軍組織レンジャー及びシンド州警察がパキスタン・タリバーン運動（TTP）等のテロ組織を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図る通称「カラチ掃討作戦」を現在も継続しており、テロ、殺人、身代金目的誘拐の発生件数は減少しているが、強盗、窃盗等街頭犯罪の発生は高止まりであり、治安情勢は改善途上である。

イ 今期1～3月にかけて、テロ発生件数4（8）件（以下カッコ内は前年同期）、死者数7（5）名、負傷者数4（3）名と前年比で件数は半減、死者数等は若干増加した。警察や治安機関に対する攻撃は断続的に発生している。3月には市内のスタジアムで大規模なクリケット大会が開催され無事終了しており、治安情勢は全体としては安定している。しかし、街頭犯罪は昨年より増加しており、また、在留邦人の犯罪被害が3件（強盗2件、強要1件）発生している。さらに、2月に当地で稼働していた中国人1名が殺害され、外国人に対する脅威は存在している。

（2）バロチスタン州

ア パキスタンからの独立や同州の自治拡大を目的とする民族主義武装集団等による反政府活動や治安機関へのテロ攻撃が行われている。また、中パ経済回廊（CPEC）関連事業の従事者が襲撃される事件が発生するなど、治安情勢は不安定である。州都クエッタ市では宗教過激派等による異宗派、移民、治安機関を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件が多発している。

イ 当期1～3月はテロ発生件数40（31）件、死者数56（16）名、負傷者数89（77）名と昨年より情勢は悪化している。クエッタ市においては、警察や治安機関に対する襲撃事件や爆破テロ事件が頻発している。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）邦人関連事案

① 邦人に対する銃器による強盗被害

1月2日、カラチ市PECHS地区において、在留邦人が銀行で用事を終え徒歩で移動中、パキスタン人3人に拳銃を突きつけられ金品を強奪される被害に遭った。

② 邦人に対する銃器による強要被害

2月6日、カラチ市DHA地区から、在留邦人が車で帰宅の際、軍の情報機関を名乗るパキスタン人3人から拳銃を突きつけられ、指示通りに運転させられるも、途中でレンジャーの検問に遭い解放された。身体や金品の被害は無かった。

③ 邦人に対する銃器による強盗被害

3月16日、カラチ市サダル地区において、旅行中の在留邦人が安宿を探し徒歩で移動中、警察官を名乗るパキスタン人から拳銃を突きつけられ金品を強奪される被害に遭った。

(2) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した当期1～3月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人、身代金目的誘拐は減少しているが、強盗は増加、強姦は倍増している。市民に身近な街頭犯罪の発生件数は増大しており、邦人被害も強盗等3件発生しているから、依然として防犯対策の必要があり、十分な注意が必要である。

主な犯罪種別の内訳は以下のとおり。

- ・ 殺人 95件 (112件)
- ・ 身代金目的誘拐 2件 (5件)
- ・ 強盗 848件 (699件)
- ・ 強姦 41件 (20件)
- ・ 薬物所持 1,443件 (1,141件)
- ・ 武器不法所持 1,728件 (1,587件)

(3) 銃器使用による強盗（ガンポイント）

今期において銃器を使用した犯罪が多発した。邦人被害も3件（強盗2件、強要1件）発生した。特に、当地では銃器を使用した強盗に注意する必要がある。カラチ市における強盗の典型的な形態は、バイクに乗った2人組が、停止中の車両や歩行者を標的とする場合である。また、主要幹線道路上において交通渋滞で停車中の車両に対して次々と拳銃を突きつけ金品を強奪する手口も散見される。

3 主なテロ関連事案等（報道ベース）

(1) シンド州・カラチ

- ① 1月12日朝、カラチ市グルベルグ地区で警察官1名がバイクに乗った男2名に射殺された。TTPが犯行を認めた。
- ② 1月18日、カラチ市サダル地区のマーケットエリアで手榴弾が投げ込まれた。男性1名が死亡し、6名が負傷した。リヤリ地区のギャングが犯行の可能性。
- ③ 1月29日深夜、カラチ市ランディータウンにおいて、レンジャー隊員及びその友人の警察官が強盗に遭い、抵抗した際発砲を受けた。レンジャー隊員は死亡した。
- ④ 2月5日午後、カラチ市ニールムコロニー地区で中国人が買い物中、近付いてきた車両から発砲を受け、中国人1名が死亡し、通行人1名が負傷した。
- ⑤ 2月13日夕、カラチ市東部警察局勤務の警察高官が、カラチ市バローチ・コロニーを車両で走行中、何者かに襲撃され、身辺警護員が重傷を負った。
- ⑥ 2月12日夜、カラチ市コランギ地区で警察官が強盗に銃殺された。13日夜に

ディフェンス・ビュー地区を通行中の警察車両が強盗から銃撃され1名が負傷した。

- ⑦ 3月13日、カラチ市リヤリ地区アリ・ムハンマド・ジクリ・ムハッラをレンジャーが車両で巡回中に攻撃を受け、1名が死亡、3人が負傷した。

(2) バロチスタン州

- ① 1月1日、チャマンで2回爆発がありFC隊員3名を含む少なくとも7名が負傷した。建設中の建物設置のIEDが爆発し、治安機関員の到着時に再度爆発した。
- ② 1月2日、クエッタ市郊外バレリのFC検問所を男達3人が襲撃して銃撃戦となり1名が自爆した。FC隊員12人が負傷したがテロリスト2名が殺害された。
- ③ 1月6日、クエッタ市サリアブ・フライオーバーにおいてバロチスタン警察の有事即応部隊(RPG)がテロリストの攻撃を受け、1名が死亡、1名が負傷した。
- ④ 1月9日、クエッタ市サーキュラー・ロードのGP0・チョークで自爆テロにより7人(内警察官5名)が死亡、25人(同8名)が負傷した。TTPが犯行を認めた。
- ⑤ 1月15日、ケッチ県トゥルバットから約50km東のシャポック地区で、車両移動中であったFC隊員等が武装集団から襲撃を受け、5名殉職、6名が負傷した。
- ⑥ 1月16日、バロチスタン州中心部を縦走するライサーニ・ロードで、交通整理中だった警察官1名が、何者かに銃撃を受け死亡した。
- ⑦ 1月17日、チャマンのモール通り沿いの鉄塔付近に設置されたIEDが遠隔操作により爆発し、警察官2名と他1名が負傷した。
- ⑧ 1月18日、クエッタでポリオ接種運動の警護に従事予定の警察官が襲撃され2名が死亡した。別の場所でも運動参加者女性2名が殺害された。
- ⑨ 1月21日、2011年に無実の罪で殺害されたチェチェン人5名の報復として、解雇された元警察官がTTPに殺害された。
- ⑩ 1月28日、クエッタで何者かが警察官に向け発砲し、同警察官が死亡した。
- ⑪ 1月30日、グワダルをFC隊員が車両で移動中、路傍に仕掛けられたIEDが爆発し、少なくとも5名が負傷した。
- ⑫ 2月5日、パンジグルでビスミッターホテル近傍に駐車のアートバイクが爆発し1名が死亡、8名が負傷した。
- ⑬ 2月14日、クエッタ市中心部を縦断するサリアブ・ロードで、路線を巡回警備中であったFC隊員4名が、武襲撃を受け殉職した。TTPが犯行声明を出した。
- ⑭ 2月28日夜、ノーサハル地区に設置されたFC検問所で、自爆テロ犯が自爆ジャケットを起爆させ、FC隊員4名が死亡し、7人が負傷した。
- ⑮ 2月28日早朝に、クエッタ市サムングリ・ロードにおいて警察高官が乗車した車に対し、何者かが発砲し、警護にあたっていた警察官2名が死亡した。
- ⑯ 3月4日、クエッタ〜カラチを繋ぐ幹線道路(フズダル近郊)で、ダコイトがバスの乗客から金品を強奪中に部族警察と銃撃戦になり、警察官1名が死亡した。
- ⑰ 3月4日、クエッタのアリ・パハイ通り地区でハザラ人の青年が何者かに銃撃を

受け死亡した。

- ⑱ 3月4日、クエッタのシルキー通りで交通警察官1名が何者かに銃撃を受け、死亡した。
- ⑲ 3月7日、ハザラ人の商人を警護中の警察官が何者かに襲撃を受け、1名が死亡し、1名が重傷を負った。警察は輸送車及び警察車両を派遣し警護にあたっていた。
- ⑳ 3月15日夜、キラ・サイフラで爆発が起こり、少なくとも2名が死亡、6名が負傷した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

カラチ市警察が発表した当期1～3月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は2件（前年同期4件）発生し、誘拐を巡る状況は改善している。しかし、昨年5月にバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害されている。また、本年2月にカラチ市内において邦人が拳銃による強要被害に遭っており、誘拐事案に発展するおそれがあった。引き続き十分な注意が必要である。

当地では誘拐は資金獲得の手段となっており、同目的でテロ組織が犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を売り渡す場合もある。犯罪者に隙を与えないよう目立たず、行動を予測されないようにする日常生活上の注意が必要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

（1）渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

（2）駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、拳銃強盗等の街頭犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団等による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。